

キャンパス・コラム

「とどけなくっちゃ」

学生の皆さんは、各学部事務室の前に置いてある「とどけなくっちゃ」という題名のパンフレットを見たことがあるだろうか。この題名は知らなくとも、「年金制度が変わりました」と書かれたポスターの横を、男女学生が慌てて駆け出しているパンフレットといえ、気がつくかもしれない。

これは、厚生労働省作成のもので、国民年金の「学生納付特例制度」を説明する目的で作られたものである。国民年金は、老齢・障害・遺族を理由とする給付であり、日本国内に住所を有する20歳以上の者が加入し、月額13,300円の保険料を納付する義務を負う。このため、20歳以上の学生も保険料を負担するが、大学生は所得がないことから、実際には親が保険料を支払っており、これは、加入者が保険料を支払い、年金を受給するという年金制度の本質に反する

ものであろう。従来は、親の所得による保険料免除制度が採用されていたが、平成12年度から、学生本人の申請があれば、保険料は就職したあとに支払えばよくなった。これが、「学生納付特例制度」である。

ところで、国民年金への未加入者や保険料未納者は、全体の10.2%と、1割を超えている。とりわけ、大都市圏の20代の若者は3人にひとりには保険料を支払っていない。この若者たちは、障害となっても、最高月額84000円の障害基礎年金が支給されないし、また、将来の老齢年金受給年齢に達する40年後には、数百万人の無年金高齢者が登場することが予測されている。若い時代に、少ない所得から保険料を支払ってきた者もあるのに、保険料を納付せず、高齢になって生活が困窮したから、国が何らかの所得保障をすべきであると主張した場合、このような主張を認めるか否かは、大きな政治・社会問題となることは必至であろう。学生の皆さんは、どう考えるだろうか。

広報委員 山田 省三（法学部教授）

中国吉林省の省都、長春は旧満州国の首都だったところで、清朝のラストエンペラーの傀儡皇帝、愛親覚羅溥儀の宮殿がある。1934年、溥儀は満州国の皇帝として即位し、載冠式の部屋もそのまま保存されている。いまは「省博物館」として公開されている▲ところが見学中に本の狙いは「戦争博物館」ではないかと思えてきた。日本軍がいかに無謀な侵略だったかを告発する写真や用具がびっしり並んでいる。中国住民の首を軍刀で刺し殺し、それを得意にぶら下げる日本兵士。目隠された中国人が同胞を埋めるための穴を掘らされている写真や用具の数々▲とても正視にたえない。展示物に向かつて思わず合掌し、改めて「戦争の歴史認識の大切さ」を実感した。日本は大陸で武力を背景に資源の収奪をはかっていたのは紛れもない事実である▲第2次大戦からとうに50年が過ぎ、その間に日本は好景気をバツクに自由を謳歌してきた。歴史を学ぶことは過去の過ちを知り、それを繰り返さない認識を学ぶことである。この夏の旅先で得た教訓は大きかった。

（広報課・石）

編集後記

Hakumon
ちゅうおう

2001・10月号（第169号）
2001年（平成13年）10月1日発行

発行 中央大学広報委員会

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉 広報課 ☎0426-74-2146

印刷 泰成印刷株式会社

〒130-0026 東京都墨田区両国3-1-12
電話 03-3631-8141